

# 知的財産学習における反転授業の取組と 質的分析に基づいた学習成果



広島修道大学 経済科学部 准教授 阿濱 志保里

## 要 約

知的財産を適切に運用していくためには、基礎的な知識を身に付け、着実な知識を基盤とした適確な判断と応用力が期待される。近年、高等教育では、学習者の主体的な学習活動を支える知識習得の学習方法の1つとして、反転授業が取入れられ様々な学習分野において一定の成果が解明されている。

本研究では、高等教育での取組が推進されている反転授業を知的財産に関する学習において実施した。さらに、どのような学習成果が得られたのかを質的な観点より解明を試みた。その結果、学習成果が高い学習者は、知的財産に対して、社会的役割や社会との接点を意識していることが示唆された。

## 目次

1. はじめに
2. 研究デザイン
3. 教育実践
4. 調査概要
  - (1) 調査対象
  - (2) 分析方法
5. 結果
  - (1) 語彙抽出
  - (2) 共起ネットワーク分析
  - (3) クラスター分析
6. 考察
7. まとめ

## 1. はじめに

我が国では2002年、知的財産立国が宣言<sup>(1)</sup>され、知的財産を積極的に活用することで経済及び産業活動の活発化を図った。知的財産立国を支える人材として、さまざまな人材育成に関わる政策や知的財産政策が打ち出され<sup>(2)</sup>、知的財産を取扱う専門人材はもとより、初等中等教育から知的財産に関する知識や意識の習得を目指し、学校教育で様々な取組を推進している。新たな価値を生み出すためには知的財産に関連する知識を習得し、知的財産を活用するとともに、適切に取扱うことのできる人材が必要とされる<sup>(3)</sup>。その影響を受け、一部の現行学習指導要領において知的財産が取扱われ、中学校国語では、適切な引用方法の学習指導や技術・家庭の分野では産業教育における知的財産について、美術では著作権への配慮を促す学習指導につい

て言及されている<sup>(4)(5)(6)</sup>。さらに、社会生活においても私たち身の回りでの知的財産が担う役割は大きく、さまざまな恩恵を受けている。

しかし、実践的なアプローチを中心とした教育実践<sup>(7)(8)(9)</sup>が中心であるため、体系的かつ系統的な学習指導は限られている。また、啓発に関する内容が多く、知識定着を促し、活用することを学習する教育実践はあまり見られないのが現状である。

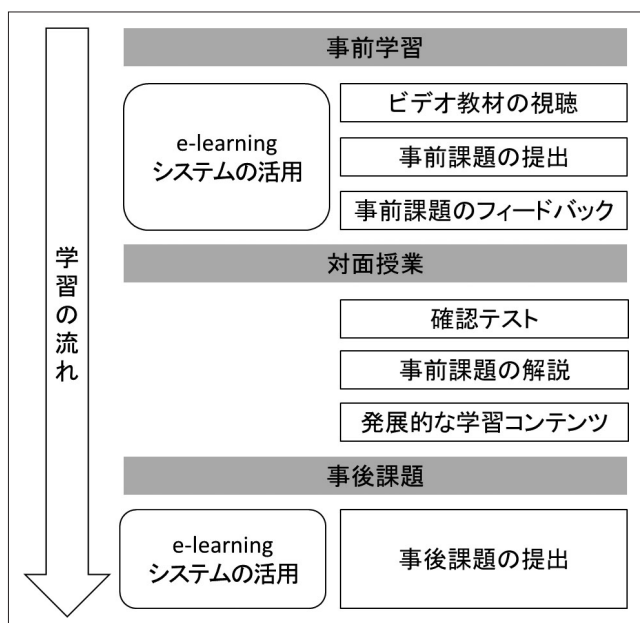
また、大学入学前までの学習状況を見ると、学習指導要領に知的財産の記述は確認できるものの、学習者の知的財産学習状況にはばらつきが見られる<sup>(10)</sup>。社会的ニーズの高まる知的財産への理解に対して高等教育において、より効果的に学習を進めるためには、着実な知識の定着は重要である。そこで、本研究では、知的財産学習に反転授業を取入れた。さらに、新たな学習方法の導入に伴った学習者の意識の解明をするため、知識習得を目的とした試験結果の得点の高い学習者（得点上位群）と得点の低い学習者（得点下位群）とに分け、定性的な観点より学習効果について解明を試みた。

## 2. 研究デザイン

本研究では、知的財産教育におけるより効果的な学習方法の検討において、学習内容の定着を目指した反転授業を用いて、教育実践を行なった。反転授業とは、重田によると<sup>(11)</sup>、「授業と宿題の役割を「反転」させる授業形態のことを指す。（省略）反転授業では自

宅で講義ビデオなどのデジタル教材を使って学び、授業に先立って知識の習得を済ませる。そして教室では講義の代わりに、学んだ知識の確認やディスカッション、問題解決学習などの協同学習により、学んだ知識を「使うことで学ぶ」活動を行う。」としている。各学習段階での学びの ICT 化が進んだことから、様々な学習段階での取組が進められている。

本研究では、一連の学習を、授業前に実施する「事前学習」と、実際の教室で学習を行う「対面授業」、さらに、対面学習後の「事後学習」と設定し、e-learningを導入した。学習者の学習の流れのデザインを図1に示す。



(図1：学習デザイン)

事前学習では、e-learning システムに格納された知識習得を中心としたビデオ教材を各学習者が視聴する。視聴後、ビデオ教材の内容を確認するために事前課題を行う。対面授業に参加し、ビデオ教材の学習を確認するための確認テストを実施する。解説を行いながら、事前課題で学習者が苦手とした内容等を含め、フィードバックを行う。対面授業では、発展的な学習内容を取り扱う。授業終了後、事前課題及び対面授業の内容を考慮し、より発展的かつ実践的な学習問題に取組むこととした。

### 3. 教育実践

本取組は大学1年生のために開講した知的財産に関する入門講義を対象に教育実践を行なった。対象とした授業は、将来、教員を目指す学習者とした。そのうちの反転授業を2015年度後期前半(10～12月)で開

講したクラスで取入れた。授業では、知的財産に係わる概論的な内容を法律の側面を重視するとともに、身の回りにある知的財産を気づき、初期対応できる能力を身に付けることとした。本授業では、受講者が知的財産の全体概要を理解するとともに、レポートや論文作成時に必要とする知的財産の知識など、身近な事例をテーマに概念の理解や初歩的な知的財産へ対応出来る能力を図るものとした。各回の学習内容の概要を表1に示す。

|   | 項 目               | 学習内容                                                                                                                              |
|---|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | ガイダンス・知的財産の全体像    | 学習の方法について説明し、Moodleを活用するための登録等の事前準備について解説を行った。数多く存在する知的財産の全体像を俯瞰するとともに、それらを三類型化して権利取得や保護活用の解説を行う。学習者の身近な題材や話題を利用して知的財産の観点から検討を行う。 |
| 2 | 著作権の基礎知識          | 著作権制度の沿革と著作権法で定められている権利の概要の解説を行う。ここでは、著作権制度の概要と著作物性の判定やその基準について解説に基づき、検討を行う。                                                      |
| 3 | 著作権法に定められた権利      | 著作権法に定められた著作者の権利、及び著作物を伝達する者の権利の解説を行う。                                                                                            |
| 4 | 著作権の個別権利制限・研究者マナー | 著作権法に定められている権利制限規定の解説を行う。あわせて、研究者として研究を進める際のマナーあるいは具体的に原稿や論文を作成する場合の留意点を知的財産の観点から学ぶ。                                              |
| 5 | 産業財産権の基礎知識(特許制度)  | 産業財産権制度の概要の解説を行うとともに、知的財産情報データベースの概要と検索方法を知財情報検索・解析・活用の関連から、取得した情報の読み方と情報活用方法についても検討する。                                           |
| 6 | 意匠制度              | 産業財産権の中で、物品のデザインを保護する意匠制度について解説を行う。                                                                                               |
| 7 | 商標制度              | 商品・役務の識別機能を担う商標制度について解説を行う。                                                                                                       |
| 8 | 期末試験              | 学習した内容を総合して、振り返り、知識の習得及び定着の状況を図る。                                                                                                 |

(表1：学習内容)

反転授業は8回の授業のうち、1回目と試験を実施する8回目を除き、2回目から7回目までの著作権及び産業財産権に関する内容の6回分について反転授業で実施した。反転授業において学習を進めることをガイダンスで説明した。対面授業に対応したビデオ教材で取扱った学習内容を表2に示す。

| 授業回 | 項目                        | 内容                              |
|-----|---------------------------|---------------------------------|
| 2   | 著作物とは                     | 著作物とは何かを著作権法の範疇で解説              |
|     | 著作権法                      | 著作権法の法目的、客体、権利主体について解説          |
| 3   | 支分権の概要・著作者人格権             | 著作物から発生する支分権について解説              |
|     | 支分権                       | 支分権の種類とその法的な範疇で解説               |
|     | 著作隣接権                     | 著作隣接権に与えられている権利の範疇              |
| 4   | 著作権制限                     | 著作物の個別権利制限について解説                |
|     | 引用の方法                     | 種類によって異なる引用方法について解説             |
|     | 著作権法と研究者倫理                | 著作権法と研究者倫理の関係性について解説            |
| 5   | 産業財産権の全体像                 | 産業財産権の法目的と客体、権利の及ぶ範囲について解説      |
|     | 特許制度                      | 特許制度の法目的、客体及び権利の及ぶ範囲について解説      |
|     | 特許権の要件                    | 特許取得の要件について解説                   |
| 6   | 知財情報の概要                   | 知財情報の役割について解説                   |
|     | 知財情報の検索                   | 知財情報の検索方法について解説                 |
|     | 意匠情報・商標情報・植物新品種情報・音楽情報の検索 | 意匠情報・商標情報・植物新品種情報・音楽情報の検索について解説 |
| 7   | 意匠制度                      | 意匠制度の法目的、客体及び権利の及ぶ範囲について解説      |
|     | 商標制度                      | 商標制度の法目的、客体及び権利の及ぶ範囲について解説      |

(表2：ビデオ教材の学習内容)

制作したビデオ教材は、事前に対面授業に関わる知識を中心とした。また、対面授業では、ビデオ教材で扱った知識をもとにさまざまな課題を個人・グループ活動で行った。

## 4. 調査概要

### (1) 調査対象

これまで、先行研究において、反転授業を導入した教育デザインの設計<sup>(12)</sup>を行い、教育実践を行なった。その結果、知識の定着について検証・評価を行なったところ、知識習得においての効果が見られ、知識習得の促進が確認できた。本研究ではさらに、反転授業を導入することで、学習者の意識変容にどのように影響を与えているのか、学習者の知識獲得が意識にどのように影響を与えているのかを得点上位群と下位群とに分け、定性的な観点より分析を試みた。

## (2) 分析方法

学習における学習成果を解明するため、質的な観点より、学習者を対象とした授業初回時と最終回時の自由記述を対象に計量テキスト分析を行なった。計量テキスト分析では、樋口<sup>(13)</sup>によれば、テキスト型データを計量的に分析する方法としては従来、Dictionary-basedアプローチとCorrelationalアプローチのいずれかを採用されることが多かった。Dictionary-basedアプローチは、分析者が作成したコーディング基準に沿って言葉や文書を分類する方法とし、分析者の理論や問題意識を自由に操作し、データの様々な側面に自由に焦点を絞ることができるという利点がある。しかし、主観的なコーディング規則や基準ばかり作成・利用されてしまう可能性がある。一方、Correlationalアプローチは、多変量解析によってことばや文書を分類するアプローチである。分析者の持つ理論や問題意識を排除することが可能で、データを要約・提示できるという利点があるが、自動的な言葉の切り出し・要約には限界があり、理論や問題意識を自由に操作し追及することは困難である。樋口らはこれらの2つのアプローチをお互いに補う形で統合することを提案した上で、日本語テキスト型データの分類に適したシステムとしてKHCoder<sup>(14)</sup>を開発・公開している。本研究では、この統計ソフトを用いて学習者の自由記述を分析する。KHCoderは語彙の選択にあたり恣意的となり得る「手作業」を排し、多変量解析によってデータ全体を要約・提示することと、コーディング規則を公開するという手順を踏むことによって、操作化における自由と客観性の両立を可能にする。本研究においても操作の詳細を明示・公開した上で多変量解析によるデータの要約・提示を行なうことで、客観性を確保しつつ設問毎の特徴を捉えることを試みる。

分析対象としたのは、授業に対して学習者の自由な意識を確認することができる「授業の感想」とした。調査から得られた文章の記述データによる共起ネットワーク分析を試みた。共起ネットワークでは、出現パターンの似通った語、すなわち、共起程度の強い語を線で結んだネットワークを描くことができる語と語が線で結ばれているため、多次元尺度法のように単に語を布置する手法よりも、解釈が容易である。そのため、関係性の程度や文章の中で記述される回数によって、グループ分けし、表出された語彙の関係性について



ては、出現数が多い語ほど大きく、共起の程度が強いほど太い線で描画することができる。今回は、語彙間の関係性を確認するため距離や配置のみに着目する。共起関係の強弱については、分析対象となった語のすべての組み合わせについて、集合間の類似性を表す Jaccard 係数を用いて計算した。Jaccard 係数の値を 0.2 以上として得られた出現パターンに類似性・共起関係があるものに対して線を用いてネットワークを描画した。さらに、それらのデータをもとに、クラスター分析を行なった。

## 5. 結果

### (1) 語彙抽出

先行研究<sup>(12)</sup>で行った定量的な分析結果より、知識習得に効果が見られたビデオ教材を用いた反転授業であるが、さらに学習効果を明確にするために、成績比較を行なって学習効果の得られた 2015 年度後期前半 (2015 年 10～12 月) を実験群とした「反転授業導入群」、反転授業を取り入れていない「非反転授業導入群」として、2014 年度前期後半 (6～8 月) に実施した授業時において、授業初回時及び最終回授業時に実施した小レポートの記述データのテキスト化した後、計量テキスト分析により形態素解析を適用し、抽出されたキーワードから検討・考察を行なった。知識習得にどのような特性が見られたのかを解明するため、80 点以上の得点の学習者を「得点上位群」(19 名)、60 点以下の得点の学習者を「得点下位群」(5 名) とし、その自由記述を対象とした。対象とした統計量 (初回・最終回) を表 3 に示す。

|        | 初回   |      | 最終回   |       |
|--------|------|------|-------|-------|
|        | 上位   | 下位   | 上位    | 下位    |
| 総抽出語語数 | 4009 | 3548 | 13616 | 11508 |
| (使用)   | 1544 | 1362 | 5122  | 4318  |
| 異なり語数  | 623  | 562  | 1304  | 1177  |
| (使用)   | 464  | 417  | 1020  | 913   |
| 文章     | 147  | 134  | 71    | 60    |
| 段落     | 67   | 60   | 71    | 60    |

(表 3：形態素解析によって抽出された語彙)

「得点上位群」の授業初回時の自由記述を対象に抽出された語彙を表 4 に示す。

|    | 語彙   | 語彙数 |    | 語彙  | 語彙数 |
|----|------|-----|----|-----|-----|
| 1  | 財産   | 87  | 11 | 考える | 15  |
| 2  | 知的   | 79  | 12 | 初めて | 15  |
| 3  | 思う   | 56  | 14 | 分かる | 15  |
| 4  | 知る   | 38  | 14 | 商品  | 13  |
| 5  | 授業   | 29  | 15 | 学ぶ  | 12  |
| 6  | たくさん | 21  | 16 | 守る  | 12  |
| 7  | 自分   | 21  | 17 | 身近  | 12  |
| 8  | 手    | 18  | 18 | 講義  | 11  |
| 9  | 驚く   | 15  | 19 | 著作  | 11  |
| 10 | 権利   | 15  | 20 | 聞く  | 11  |

(表 4：抽出された語彙 (初回授業の得点上位群))

「得点下位群」の授業初回時の自由記述を対象に形態素解析を行なった。抽出された語彙を表 5 に示す。

|    | 語彙   | 語彙数 |    | 語彙  | 語彙数 |
|----|------|-----|----|-----|-----|
| 1  | 財産   | 76  | 11 | 著作  | 13  |
| 2  | 知的   | 69  | 12 | 権利  | 12  |
| 3  | 思う   | 53  | 14 | 講義  | 12  |
| 4  | 知る   | 37  | 14 | 分かる | 12  |
| 5  | 授業   | 28  | 15 | 考える | 11  |
| 6  | 自分   | 20  | 16 | 守る  | 11  |
| 7  | たくさん | 18  | 17 | 聞く  | 11  |
| 8  | 初めて  | 15  | 18 | 学ぶ  | 10  |
| 9  | 手    | 14  | 19 | 驚く  | 10  |
| 10 | 身近   | 13  | 20 | 商品  | 8   |

(表 5：抽出された語彙 (初回授業の得点下位群))

「得点上位群」の授業最終回の自由記述を対象に形態素解析を行なった。抽出された語彙を表 6 に示す。

|    | 語彙 | 語彙数 |    | 語彙  | 語彙数 |
|----|----|-----|----|-----|-----|
| 1  | 思う | 164 | 11 | 特許  | 48  |
| 2  | 著作 | 114 | 12 | 受ける | 42  |
| 3  | 財産 | 105 | 14 | 今   | 40  |
| 4  | 知的 | 99  | 14 | 理解  | 37  |
| 5  | 知る | 98  | 15 | 今回  | 34  |
| 6  | 授業 | 96  | 16 | 感じる | 33  |
| 7  | 講義 | 66  | 17 | 内容  | 33  |
| 8  | 自分 | 64  | 18 | 特に  | 30  |
| 9  | 権利 | 59  | 19 | 分かる | 28  |
| 10 | 学ぶ | 52  | 20 | 聞く  | 28  |

(表 6：抽出された語彙 (最終回授業の得点上位群))

「得点下位群」の授業最終回の自由記述を対象に形態素解析を行なった。抽出された語彙を表 7 に示す。

|    | 語彙 | 語彙数 |    | 語彙  | 語彙数 |
|----|----|-----|----|-----|-----|
| 1  | 思う | 137 | 11 | 特許  | 39  |
| 2  | 著作 | 99  | 12 | 受ける | 38  |
| 3  | 財産 | 93  | 14 | 理解  | 35  |
| 4  | 知的 | 87  | 14 | 今   | 34  |
| 5  | 授業 | 85  | 15 | 今回  | 29  |
| 6  | 知る | 82  | 16 | 感じる | 28  |
| 7  | 講義 | 57  | 17 | 特に  | 26  |
| 8  | 自分 | 57  | 18 | 内容  | 26  |
| 9  | 学ぶ | 48  | 19 | 聞く  | 24  |
| 10 | 権利 | 42  | 20 | 考える | 23  |

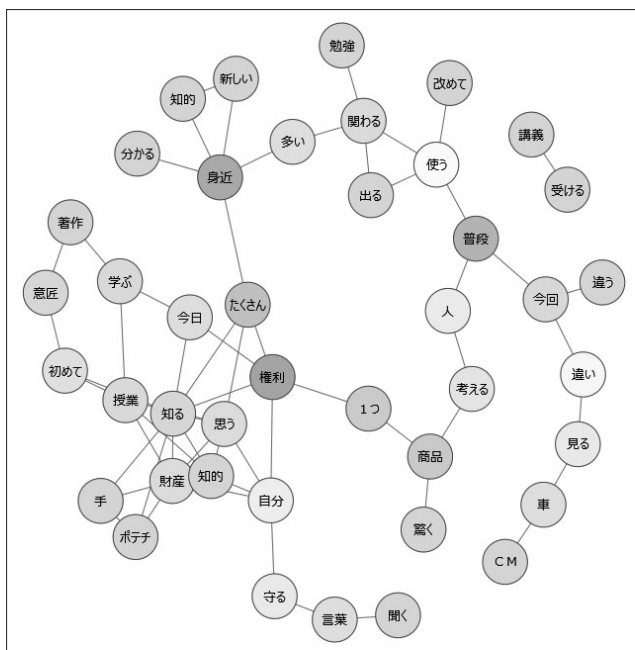
(表7：抽出された語彙（最終回授業の得点下位群）)

## (2) 共起ネットワーク分析

学習者の自由記述において語彙と語彙との関係性を見るため、5.1において得られた結果をもとに、「得点上位群」及び「得点下位群」それぞれで共起ネットワーク分析を行なった。「得点上位群」の初回授業時の共起ネットワーク分析の結果を図2に示す。

その結果、「権利」を中心とし、「たくさん」「1つ」「知る」「自分」などに関連性が見られた。さらに、ネットワーク図はまとまりがなく、広範囲に散らばっていることが分かった。

次に、「得点下位群」の学習者の初回授業時の自由記述の共起ネットワーク分析の結果を図3に示す。



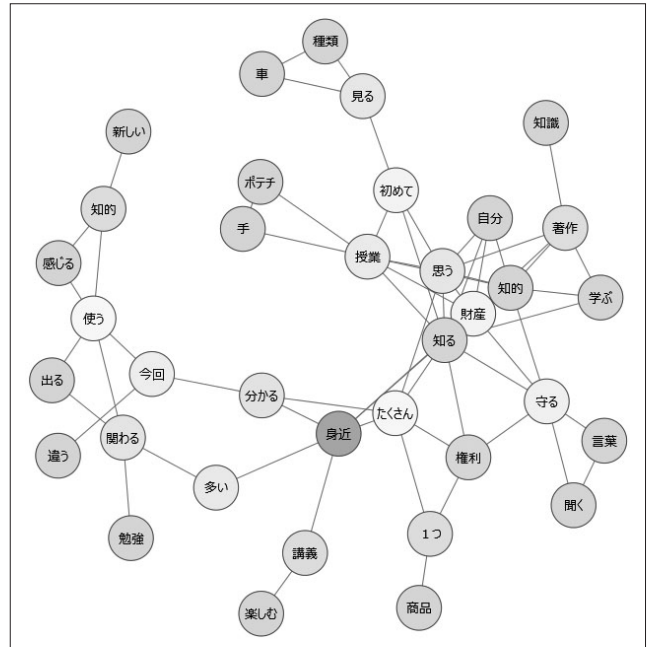
(図2：共起ネットワーク（初回授業の得点上位群）)

その結果、「身近」を中心とし、「分かる」「知る」「た

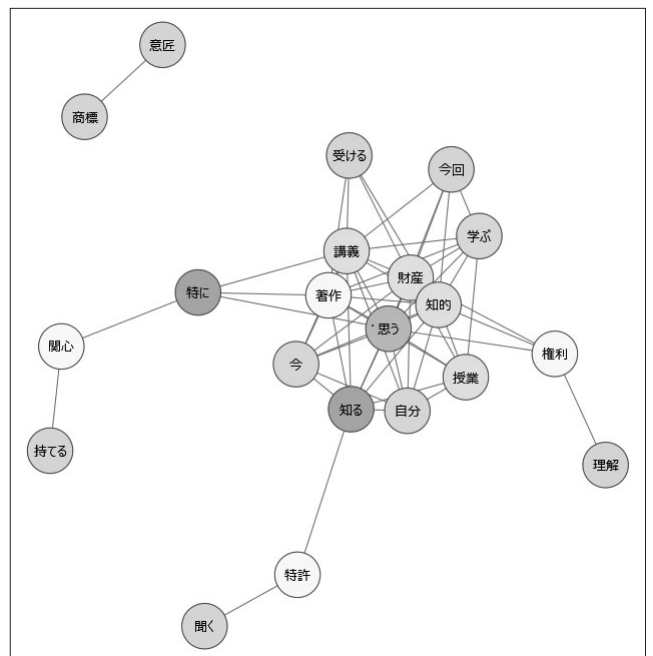
くさん」などに関連性が見られた。

次に、「得点上位群」の最終回授業時の共起ネットワーク分析の結果を図4に示す。

その結果、「知る」を中心とし、「自分」「思う」「今」「著作」などに関連性が見られた。



(図3：ネットワークの結果（初回授業の得点下位群）)

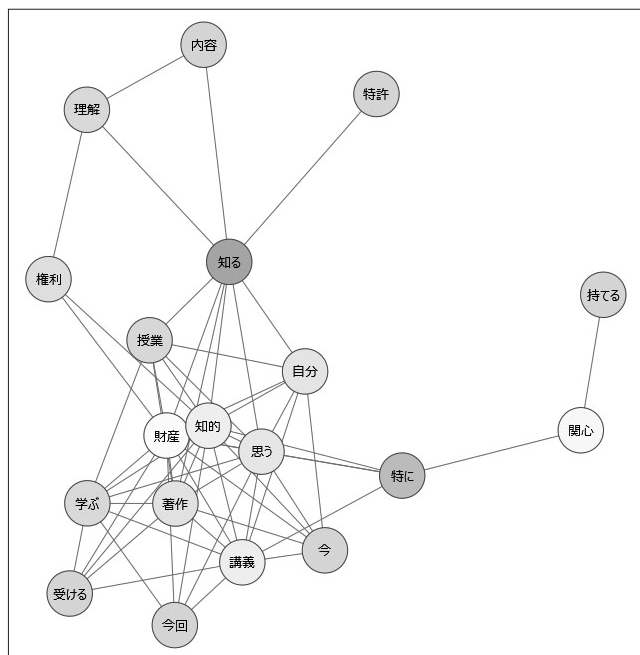


(図4：共起ネットワーク（最終回授業の得点上位群）)

次に、「得点下位群」の最終回授業時の共起ネットワーク分析の結果を図5に示す。

その結果、「知る」「特に」を中心としたネットワーク図が見られた。「知る」の周りには「自分」「授業」

「特許」などの語彙が見られた。「特に」の周囲には「関心」「思う」「講義」などの語彙が見られた。このことから、学びにおいて、特に特化した内容を意識していることが示唆された。

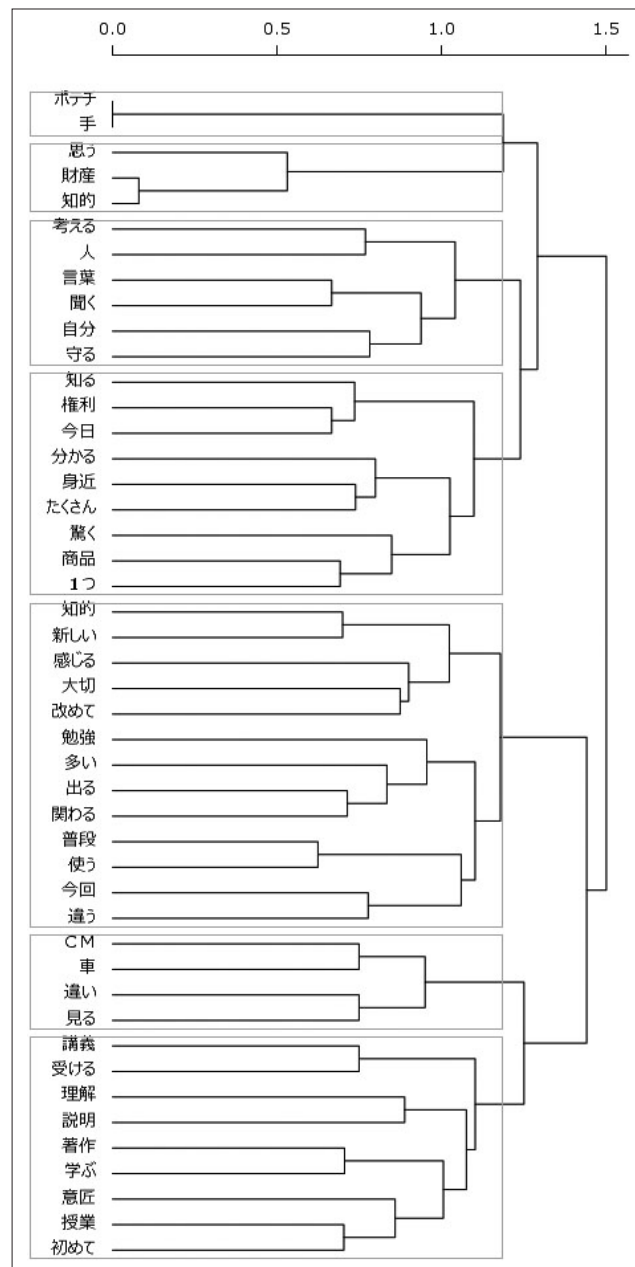


(図5：共起ネットワーク（最終回授業の得点下位群）)

### (1) クラスタ分析

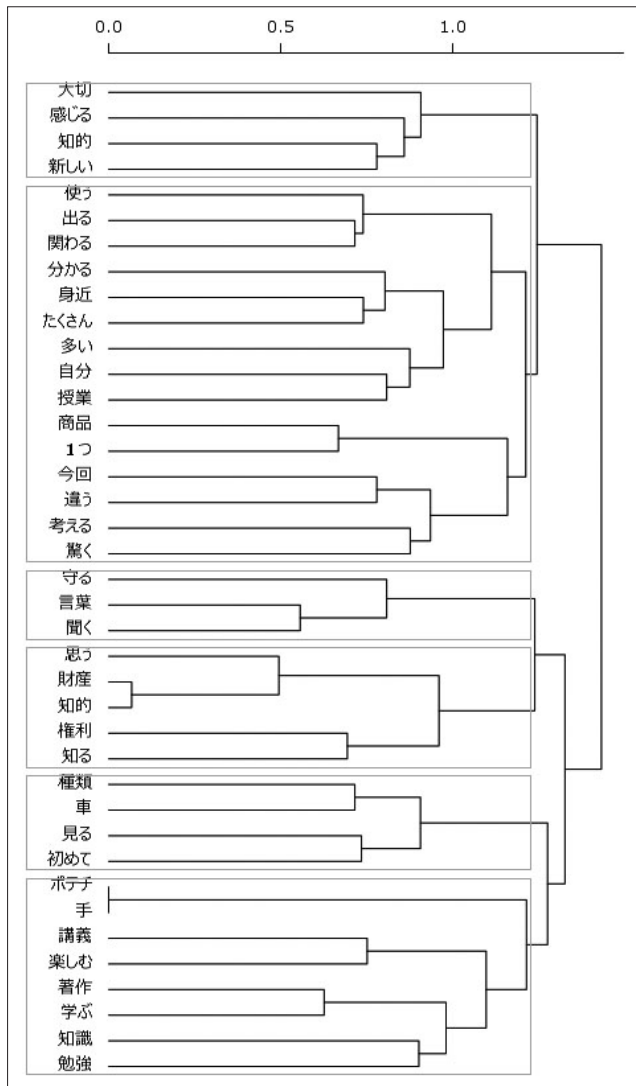
さらに、知識習得における特性を解明するため、「得点上位群」及び「得点下位群」の得られたテキストデータを用いてクラスタ分析を行なった。結果を図6に示す。

その結果、7つのカテゴリーが抽出された。さらに、カテゴリーでは、「考える」「聞く」などから構成される「思考性」や、「身近」「驚く」などから構成される「親和性」,「CM」「車」などから構成される学習教材に関連する「教具」などに関するカテゴリーの表出が見られた。



(図6：クラスタ分析（初回授業の得点上位群）)

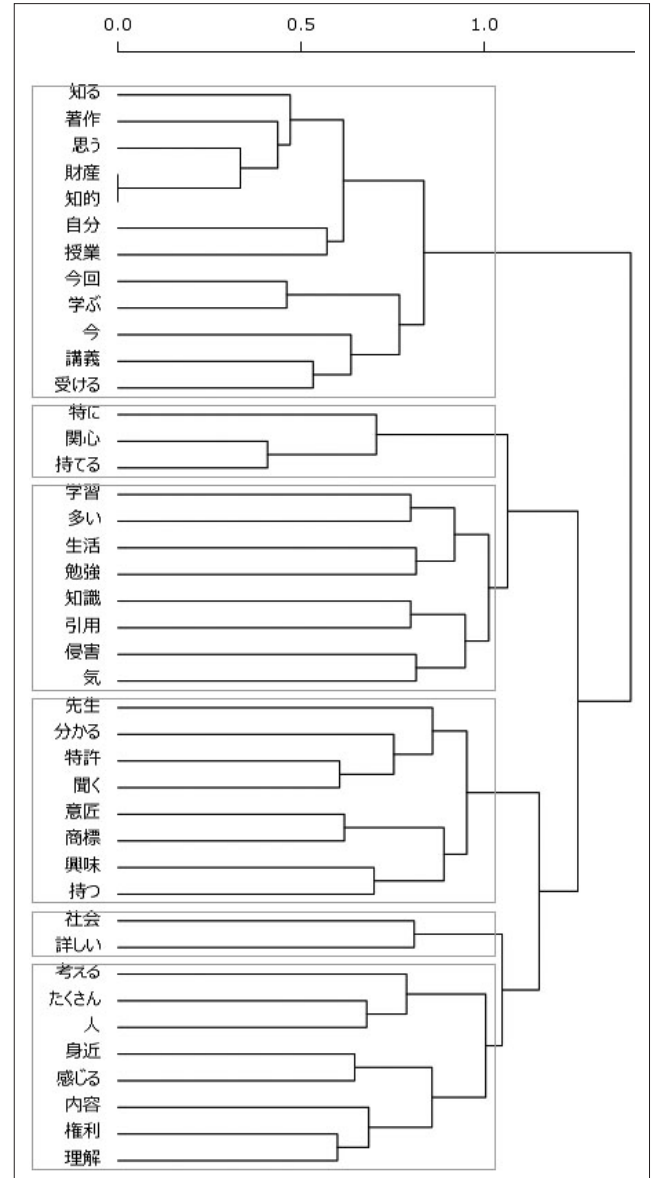
次に、「得点下位群」の初回授業時のクラスタ分析の結果を図7に示す。



(図7：クラスター分析（初回授業の得点下位群）)

その結果、6つのカテゴリーが抽出された。さらに、カテゴリーでは、「大切」「感じる」などから構成される「親和性」，「守る」「言葉」などから構成される「順守性」，「知的」「権利」などから構成される「権利」，「初めて」「見る」などから構成される「新規性」に関わるカテゴリーが表出された。

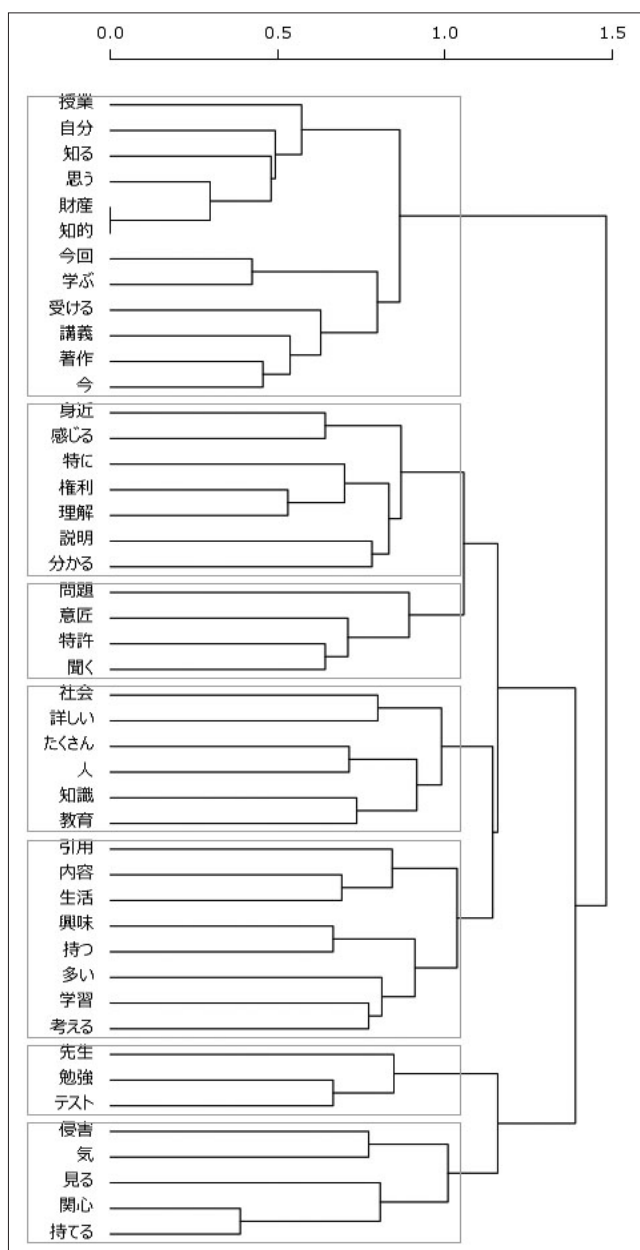
さらに、「得点上位群」の最終回授業時のクラスター分析を行なった。結果を図8に示す。



(図8：クラスター分析（最終回授業の得点上位群）)

その結果、6つのカテゴリーが抽出された。さらに、カテゴリーでは、「知る」「学ぶ」などから構成される「学習性」，「特に」「関心」などから構成される「新規性」，「社会」「詳しい」などから構成される「社会性」，「考える」「感じる」などから構成される「親和性」に関わるカテゴリーが表出された。

さらに、「得点下位群」の最終回授業時のクラスター分析を行なった。結果を図9に示す。



(図9：クラスター分析（最終回授業の得点下位群）)

その結果、6つのカテゴリーが抽出された。さらに、カテゴリーでは、「授業」「学ぶ」などから構成される「学習性」、 「理解」「説明」などから構成される「説明性」、 「侵害」「関心」などから構成される「侵害」に関わるカテゴリーが表出された。

## 6. 考察

クラスター分析からは、「得点上位群」の最終授業時において「新規性」や「社会性」にカテゴリーが表出していたことから、学習効果には新たに学ぶ姿勢や知的財産について社会との接点を見出していることが示唆された。一方、「得点下位群」では、「学習性」や「説明性」などの次の学びにつながる意欲を示すカテゴリー

が抽出されたが、「侵害」などのネガティブな意識を示すカテゴリーが見られた。このことは、得点下位群の学習者が学ぶ過程に当たり、否定的な意識を持っていることがわかった。

## 7. まとめ

本研究では、知的財産の学習分野において、反転授業を取入れ教育実践より見られた学習効果について、定性的な観点より解明を試みた。すでに定量的な分析の結果、反転授業導入群が反転授業未導入群と比較し、知識の習得に効果的であったことが示唆されたことから、成績において80点以上取得した学習者を「得点上位群」、60点以下の学習者を「得点下位群」とし、学習者の授業における自由記述の事前・事後比較を行った。その結果、「得点上位群」においては、授業初回時にはさまざまな項目やトピックに対して興味関心があり、ばらつきが見られたが、授業終了時には、学習内容の特化した内容に対して興味関心を持っていることが示唆された。またクラスター分析からは、新しさのみならず、知的財産と社会との関わりを示す「社会性」を意識していることが示唆された。一方、成績「得点下位群」については、侵害などのネガティブな意識があった。

これらの知見を基に、学習者が知的財産を学習する際、社会との接点を持たせた学習内容やトピックスを扱う教材の開発の充実が期待される。

## (参考文献)

- (1) 内閣府，“知的財産立国宣言”（2002）
- (2) 知的創造サイクル専門調査会，“知的財産人材育成総合戦略”（2005）
- (3) 知的財産による競争力強化・国際標準化専門調査会，“知財人材育成プラン”（2012）
- (4) 文部科学省，“小学校学習指導要領”（2008）
- (5) 文部科学省，“中学校学習指導要領”（2008）
- (6) 文部科学省，“高等学校学習指導要領”（2009）
- (7) 村松浩幸・森山潤，“体験的知財学習に関する技術科教員研修プログラムの開発” 信州大学教育学部研究論集 (4)，pp.191-201（2011）
- (8) 長島光晴・川島芳昭・石川賢，“小学校国語科の引用指導のための学習指導の提案”，宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要(37)，pp.9-17（2014）
- (9) 内藤善文，“アクティブ・ラーニング手法による知財教育事始め”，特許研究 (59)，pp.65-87（2015）
- (10) 阿濱志保里，“大規模調査に基づく知的財産教育の現状-3



- 年間の大学初年次教育における調査に基づいて”，日本知財学会誌 13(3), pp.56-64 (2017)
- (11) 重田勝介，“反転授業 ICT による教育改革の進展”，情報管理 56(10), pp.677-684 (2014)
- (12) 阿濱志保里・木村友久・葛崎偉・佐田洋一郎，“知的財産教育における反転授業の導入と学習効果-Moodle を活用した教育実践に基づいて”，教育システム情報学会誌 34(2),

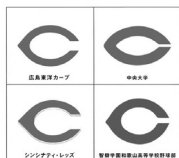
- pp.202-207 (2017)
- (13) 樋口耕一，“テキスト型データの計量的分析 - 2 つのアプローチの峻別と統合 -”，理論と方法 19(1), pp.101-115 (2004)
- (14) KHCoder, <http://khc.sourceforge.net/> (アクセス日:2018 年 2 月 1 日)

(原稿受領 2018. 12. 3)

## 書籍紹介

楽しく学べる「知財」入門  
稲穂 健市

「C」に著作権はあるか？



これからのビジネスは  
知的財産が決め手!!

講談社現代新書

判 型：新書判  
頁 数：296 ページ  
定 価：¥860 (税別)  
ISBN : 978-4-06-288412-9  
発売日：2017 年 2 月 15 日

## 楽しく学べる「知財」入門

著者 稲穂 健市

出版社 講談社現代新書

まず、本書の帯の「4つのC」の絵にインパクトを受けた。帯には、広島東洋カープ、中央大学、シンシナティ・レッズ、智辯学園和歌山高等学校の4つの赤いマークとともに、“「C」に著作権はあるか？”という言葉が書かれている。この答えについては実際に読んでもらいたい。著者稲穂健市氏は、筆名「稲森謙太郎」として「女子大生マイの特許ファイル」(楽工社)や「すばらしき特殊特許の世界」(太田出版)など興味深い知財関連の書籍を執筆してきている。本書もそれに類する一冊である。

本書は、上記の「4つのC」や今流行りの「3D プリンター」の特許など、身近で具体的な事例を取り上げながら、知的財産権について楽しく学べるようにしている。事例を読むことで、自然と実践的な知識が身に付き、実務やビジネスに生かすことができる。

知財入門者はもちろんのこと、知財専門家にとっても役立つ内容の本である。

(会誌編集部 石野知宏)